

新宮山彦ぐるーぷ第2146回

行仙宿巡回整備と煙突の仕上げ工事

◇ 実施日； 9月23日（木） 晴

◇ 参加者； 沖崎吉信、児嶋道夫、生熊敏男・千満子、大江加予子、畑林清子、松本吉殖、梶野照雄 8名

9月4日に行仙宿小屋のストーブを交換したが、煙突先端部の工事を持ち越していた。松本さんから「23日に工事を行う」と連絡があり煙突を仕上げるようになった。



登山口で



小屋根を外す



カバーを取り付ける

台風14号の接近で、17日に小屋の雨戸を閉めに行ったが、煙突下のストーブ上部や、下に敷き詰めたコンクリートブロックが濡れていた。角型排気筒の先端が開いているため、雨が内側を伝って

流れ落ちているようだ。

午前9時30分、登山口に到着。前日の雨で湿度が高く、谷筋には霧が立ち込めている。

沖崎さんから作業内容の説明があり、チェーンソー持参の児嶋さんが伐採地で薪造りをするので、6名が薪造り作業に当たる。松本、梶野の2名が小屋に先行して煙突の工事を行った。



排気の状態



本日の参加者



シンクにホース留め

小屋の屋根に上り、角排気筒の上についている小屋根を取り外す。先日荷揚げした先端カバーに煙突の穴をあけて開口部を塞ぐ。先端カバーは四隅をネジ止めした。煙突の先端にH型の笠を付けて、隙間をコーキングして完了。角排気筒の先端が閉じられたので、雨水が小屋内に入ることは無くなった。

12時前になったので、小屋に戻って昼食を摂る。食後、ストーブに薪を入れて火をつけてみる。扉を開けていると良く燃えるが閉じると消えてしまう。扉の上下にネジ式の空気穴があ

るのを児嶋さんが見つければ、この空気穴をあけると扉を閉じて燃焼が続くようになった。長い薪は入らなかったもので、25cmほどの長さで切り揃える必要がありそうだ。

外に出て煙突を見ると煙が噴き出していた。

女性陣はお堂の櫓や御供を交換、生熊さんは窓ガラスを拭いてくたさった。ススで汚れているので、雑巾が真っ黒になった。掃除機で小屋内を掃除する。

松本さんと沖崎さんは再び梯子を伸ばして屋根に上り、角排気塔に針金でステーを取った。

お堂の前で写真を撮り、午後2時に下山、登山口のシンクにホース留めを取り付けてから解散した。

(記：梶野)

## 行動タイム

補給路登山口 09:30→10:40 行仙宿 14:00→14:30 補給路登山口